

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市民生活部		
	課名	防災安全課		
	係名	消防防災係		
	記入者		電話(内線)	281

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称		施設整備事業(消防水利施設)				(3) 事業の 優先度		B		
(4) 総合計画での位置づけ							(6) 事業主体		市					
① 事業の区分		事務事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)					
② 施策コード		24401		(総合計画掲載ページ 84 ページ)				会計区分	一般会計					
基本目標(政策)		2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						財源区分	市単独					
基本施策		2-4安全に暮らせる安心なまちづくり(防災・防犯・安全)						予算科目	款 9		項 1		目 3	
施策		④消防・救急体制の強化						予算書上の	施設整備事業費					
施策内容		1消防団施設の整備・更新						事業名称	（予算書 150 ページに掲載）					
(5) 事業期間		開始		平成 27 年 4 月から		(8) 事務分類		自治事務						
		終了		年 月まで（ 力年）		根拠法令		消防組織法		消防法				

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
結城市内の消防水利施設, 消防団関連施設	市内の消防水利施設を管理することにより, 災害時への対応能力を高める
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
消防水利施設の維持管理, 補修工事, 消火栓の維持管理経費	消火栓, 防火水槽, 自然水利等, 多様な消火水利を配置し, 維持管理する必要がある
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境, 市民ニーズ等)や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
老朽化した水利標識や, 宅地造成に伴う移設など, 様々な要望に対応していく	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
実施計画							
● 予算内訳		実績額(千円)		当初予算額(千円)		計画額・見込額(千円)	
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費	防火水利標識補修工事	439	634				
	消火栓表示ライン工事	248	257				
	防火水槽改修工事	341	611				
	防火水槽撤去工事	534					
	消火栓設置工事負担金	4,385	1,782				
	消火栓維持管理等負担金	3,098	3,193				
	合計	9,045	6,477				
財源	国庫支出金(千円)						
	県支出金(千円)						
	地方債(千円)						
	その他特定財源(千円)						
	一般財源(千円)	9,045	6,477				
	合計(千円)	9,045	6,477				
補助・起債制度名							

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	水利標識, ライン表示の補修	目標値	箇所		60	55	55	55
		実績(見込)値		36	60			
	防火水槽補修	目標値	箇所		8	7	7	7
		実績(見込)値		6	8			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	消火栓の新設	目標値	箇所		5	5	5	5
		実績(見込)値		2	5	5	5	5
		達成率		40.0 %	100.0 %			
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率		%	%			

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	火災等災害時に使用する水利の標識補修は、必要性、緊急性が高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	
	手段の妥当性	A	妥当である	
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	水道施設の更新に合わせて、消火栓の新設を行うことにより、コスト削減を図っている。
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	
有効性	成果の向上	A	上がっている	
進捗度	事業の進捗	A	順調である	

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

老朽化が進んでいる箇所が多数あり、補修が間に合っていない。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

消防団による水利点検の際に、調査を行い優先順位をつけ予算計上している。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	当該経費は、消防施設の維持管理経費及び消防水利(消火栓)の新設、維持管理等に要する経費であり、今後も継続して消防施設の充実を図る必要がある。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。